

V 今月の注目情報: 明暗を分けた豪州とカナダの穀物等の生産・輸出状況

2021/22年度の豪州の冬作物は生育期の降雨に恵まれ、前年度に引き続き、史上最高水準の豊作が見込まれている。一方、カナダの作物は、特に西部の平原州の生育期の干ばつの影響で大幅な減産が見込まれている。この結果、豪州産への需要が高まっている。明暗を分けた両国の生産・輸出動向の状況をまとめた。

1 豪州の生産・輸出動向

(1) 生産動向

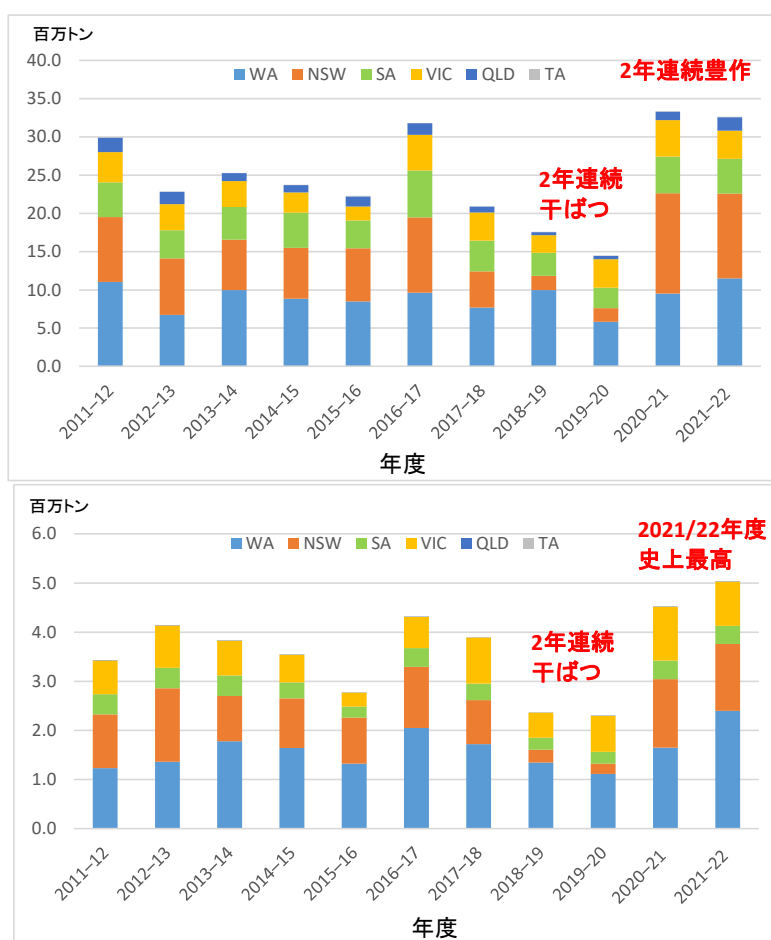
豪州農業資源経済科学局（ABARES）が9月7日に公表した「Crop Report」によれば、2021/22年度の冬作物は、生育期の降雨に恵まれ、史上最高の2,320万ヘクタールの作付面積となったことから、生産量は前年度よりは2%下回るものの、過去10年平均を32%上回る5,480万トンが見込まれている。

特に小麦は、前年度比2%減ながら、過去10年平均を35%上回る3,260万トンとなっている。大麦は、前年度比5%減ながら過去10年平均を28%上回る1,250万トンとなっている。また、菜種は前年度比11%増で史上最高の500万トンが見込まれている。

州別には、西オーストラリア（WA）州では、9月の降雨不足はあるものの、小麦の生産量が1,150万トン、菜種の生産量が240万トンとなるなど、冬作物全体で前年度比20%増の史上最高の2,030万トンが見込まれている。ニューサウスウェールズ（NSW）州では、過去最高の前年度には及ばないものの、小麦の生産量が過去10年平均を65%上回る1,110万トンとなる等、豊作の見通しとなっている。11月以降、冬作物は収穫期を迎えるとみられる。

一方、2021/22年度のコメやソルガム等の夏作物は、今後、作付期を迎えるが、降雨に恵まれ、灌漑用水の割当ての増加等から作付面積は前年度より増加すると見込まれている。コメの生産量は、対前年度比44%増の66万トン（もみベース）、ソルガムの生産量は同15%増の170万トンが見込まれている。

図1 豪州の小麦（上）、菜種（下）の州別生産量の推移



資料：ABARES「Crop Report」（2021. 9）

WA：西オーストラリア、NSW：ニューサウスウェールズ

QLD：クイーンズランド、VIC：ビクトリア、

SA：南オーストラリア、TA：タスマニア

(2) 輸出動向

小麦や菜種などの冬作物は、2年連続の豊作が見込まれていることから、輸出量も高水準が見込まれている。米国農務省（USDA）の9月の穀物等需給報告によれば、2021/22年度の輸出量について、小麦は前年度並みの2,300万トン、大麦は前年度比3%減の700万トンと2年連続の高水準を維持し、菜種は前年度比31%増の400万トンの見込みである。

輸出量の増加に伴い、以前の2年連続の不作の際にロシアやウクライナに奪われた東南アジア市場でのシェア回復に加え、ロシア等の輸出規制により他の輸出先へも市場を拡大するとみられる。

2 カナダの生産・輸出動向

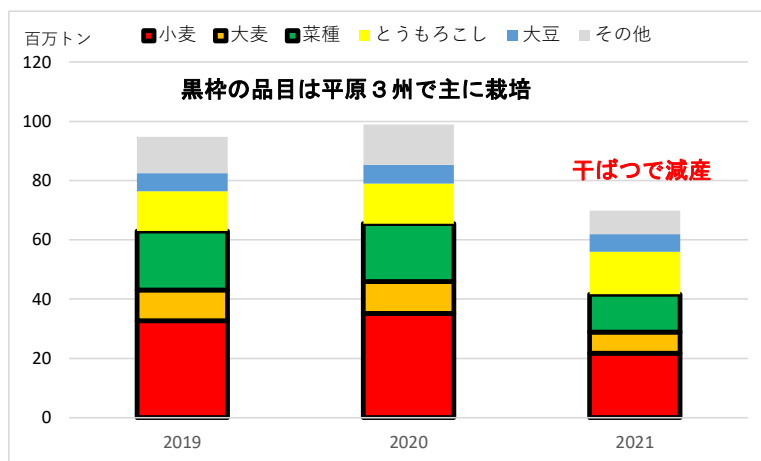
(1) 生産動向

カナダ統計局が9月14日に公表した「Model-based principal field crop estimates, August 2021」によれば、カナダ西部の7月の深刻な干ばつにより、2021/22年度の穀物等の生産量は、西部のプレーリーと言われる平原三州（アルバータ州、サスカチュワン州、マニトバ州）で栽培されている小麦や菜種などを中心に大幅な減産が見込まれている。

特に小麦は、前年度比38%減の2,170万トン、うち、春小麦は、同41%減の1,530万トン、デュラム小麦は同46%減の350万トンとなっている。大麦は、前年度比34%減の710万トンであり、菜種は同34%減の1,280万トンと2010/11年度以来の低水準となっている。

一方、オンタリオ州やケベック州などカナダ東部では、西部と異なり生育期に降雨があった。そのため、東部で主に栽培されている大豆は、前年度比7%減の590万トンとなるも、とうもろこしは1,440万トンと前年度より6%増産が見込まれている。

図2 カナダの穀物等生産量の推移



資料：カナダ統計局「Model-based principal field crop estimates」(2021.9)

(2) 輸出動向

米国農務省（USDA）の9月の穀物等需給報告によれば、2021/22年度の小麦や菜種の輸出量については、干ばつによる減産に伴い、小麦は前年度比36%減の170万トン、菜種は前年度比45%減の580万トンの見込みである。

一方、大豆については、カナダ東部が主産地であることから減産度合が小麦や菜種と比べ小さいため、同年度の輸出量は400万トンと前年度比12%減にとどまると見込まれている。

3 我が国の穀物輸入への影響

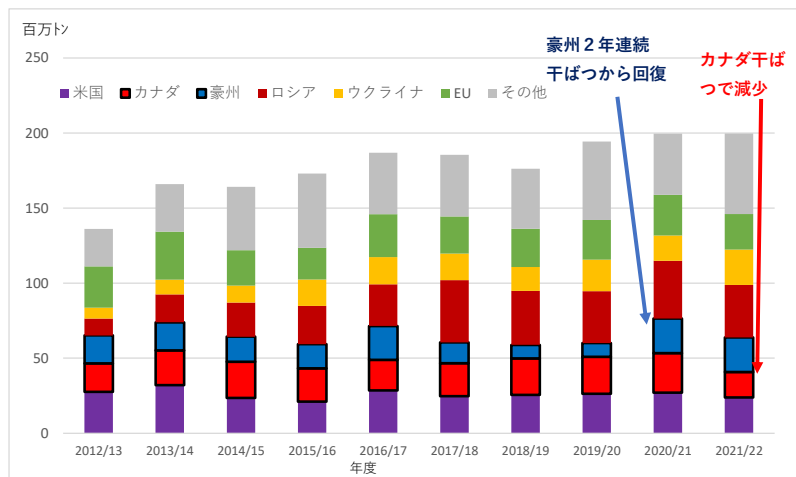
カナダの小麦、菜種の減産に関し、特にカナダの輸出シェアの高いデュラム小麦や菜種については、国際需給に影響を与える見通しである。デュラム小麦に関しては、EUの増産見通しにより緩和されるものの、米国の減産も加わり、需給はタイトになる見通しである。小麦全体でも、豪州やウクライナの豊作により緩和されるものの、カナダの減産は、高品質小麦を中心に世界の需給に影響を与えるとみられる。

また、カナダの輸出シェアが世界貿易の6割を占めている菜種については、豪州の豊作により一部は緩和されるものの、需給がタイトとなる見通しである。

ここ数か月、中国の小麦や大豆の輸入に関し、高水準ではあるものの、前年同月を下回っており、落ち着いた動きを見せている。しかし、小麦の輸入については、高品質のカナダ産、豪州産、米国産の輸入量が増加しており、特に7月は豪州産の輸入が増加した。

このようなことから、小麦や菜種、大麦等に関し、豊作見通しの豪州産への需要が高まることが予想される。特に、我が国の輸入に関して言えば、豪州の輸出可能数量や、輸出港の取扱能力にも限度があることから、穀物輸入船のスロット枠の確保が困難となり、輸送コストの上昇や、積出しの遅延など支障が出るとみられる。豪州が見通し通り豊作となっても、我が国の穀物の手当てが厳しくなり、輸入価格が上昇するなどの影響を与える可能性をはらんでいる。

図3 世界の小麦の国別輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2021.9)を農林水産省で加工

図4 中国の最近2年の主要国別小麦輸入量(2021年は7月まで)

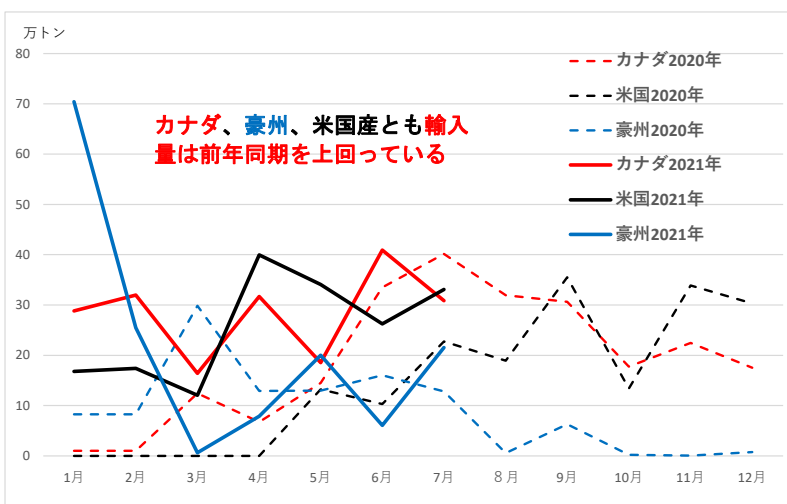
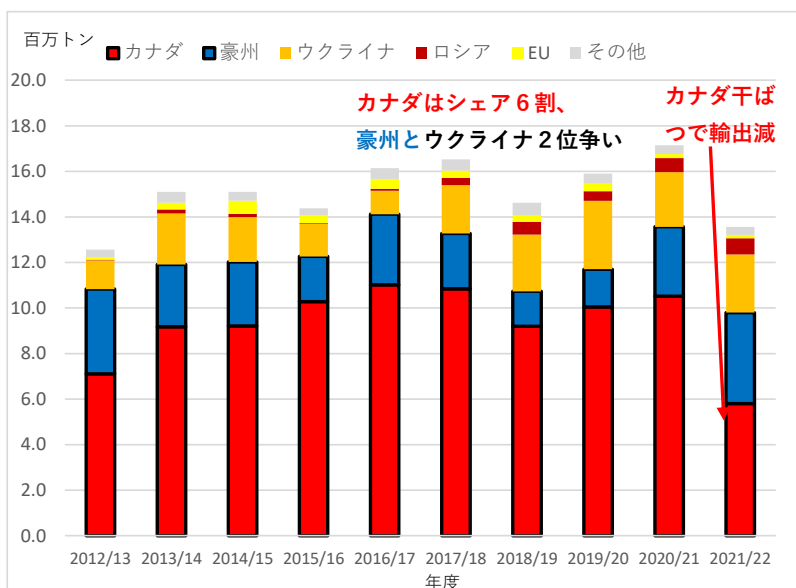


図5 世界の菜種の国別輸出量の推移

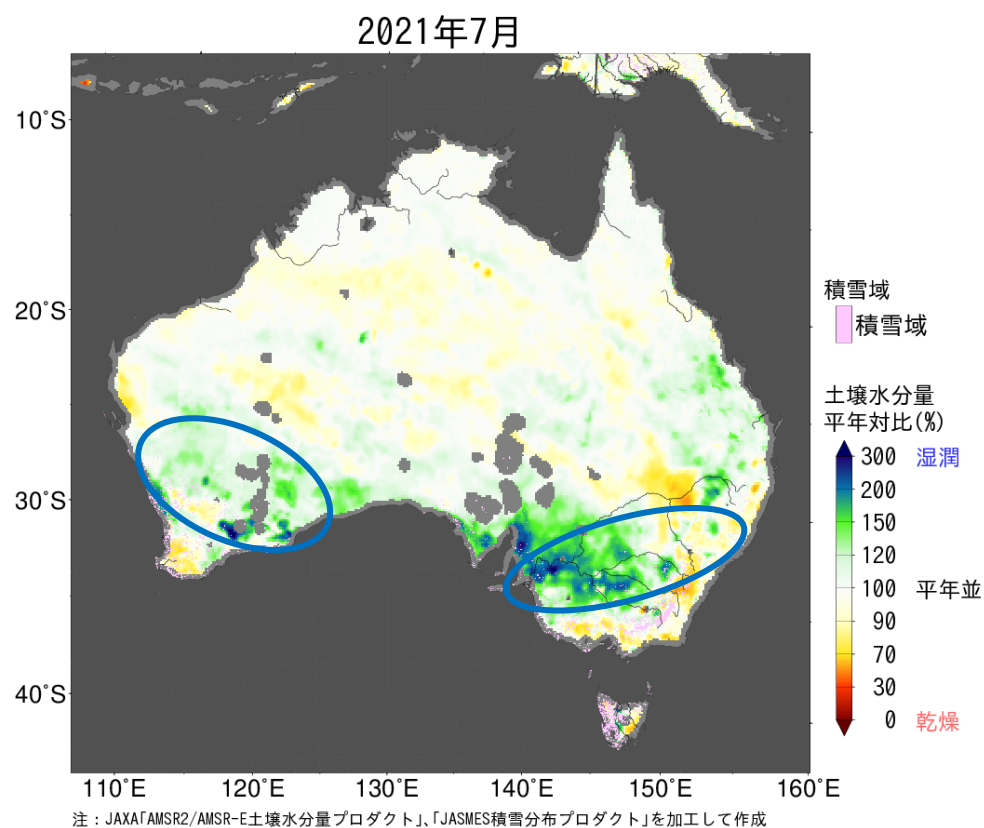
資料：中国海関統計



資料：USDA「PS&D」(2021.9)を農林水産省で加工

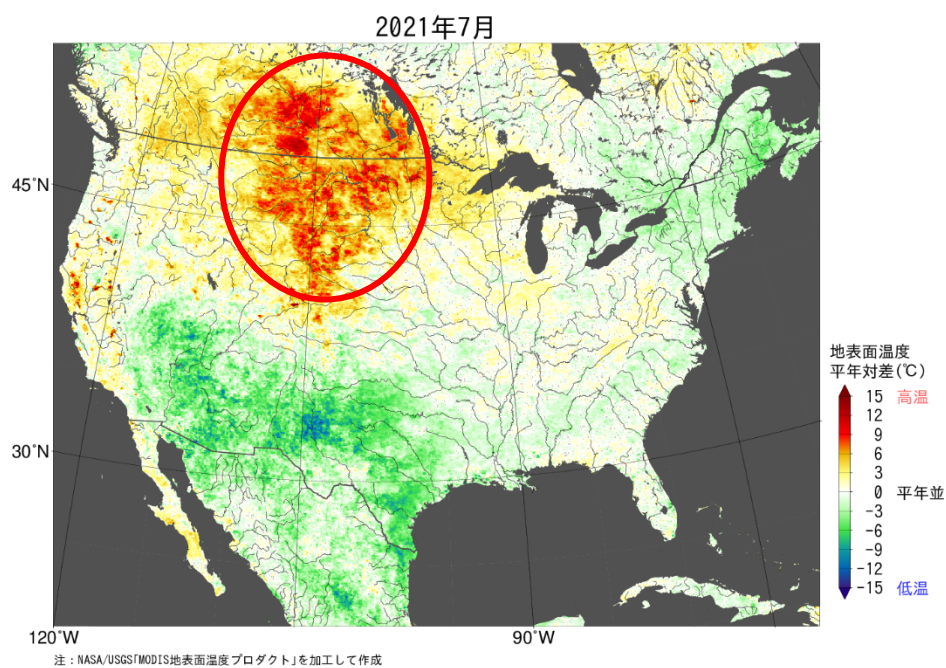
図6 (1) JASMAI **豪州の土壌水分量** 平年対比 (2021 年 7 月)

穀物主産地 (青丸) の土壌水分量は平年並またはそれ以上となった。



(2) JASMAI **北米の地表面温度** 平年対差 (2021 年 7 月)

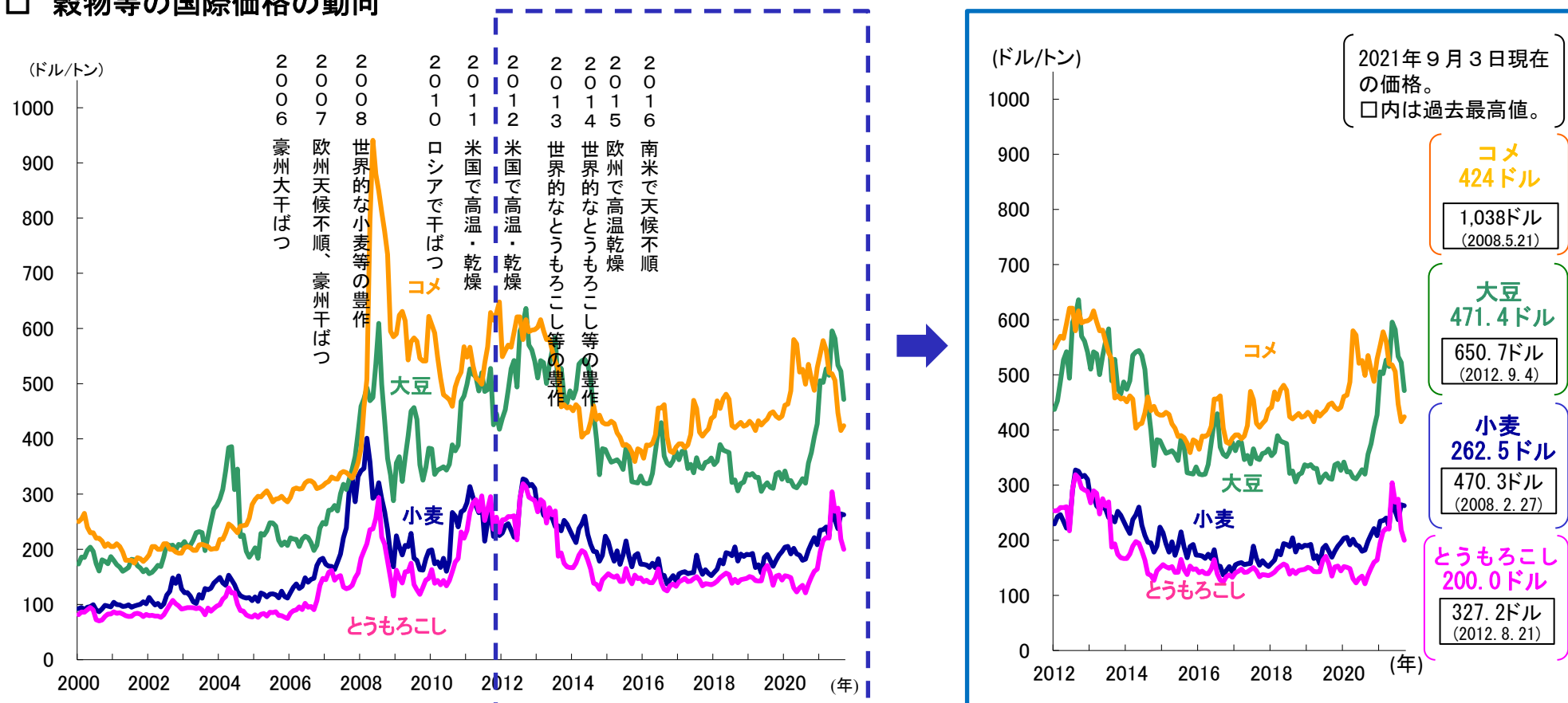
米国北部からカナダ西部 (赤丸) にかけて平年より 10℃を超える高温となった。



資料 1 穀物等の国際価格の動向（ドル/トン）

- とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から穀物等価格は低下。2017年以降ほぼ横ばいで推移も、2020年後半から南米の乾燥懸念、中国の輸入需要の増加等により、大豆、とうもろこしを中心に上昇。コメは、2013年以降低下も2020年ベトナムの輸出枠設定や2021年初頭のコンテナ不足等で一時的に上昇。2021年2月半ばから海外需要低迷で低下。
- なお、穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要により、2008年以前を上回る水準で推移している。

□ 穀物等の国際価格の動向



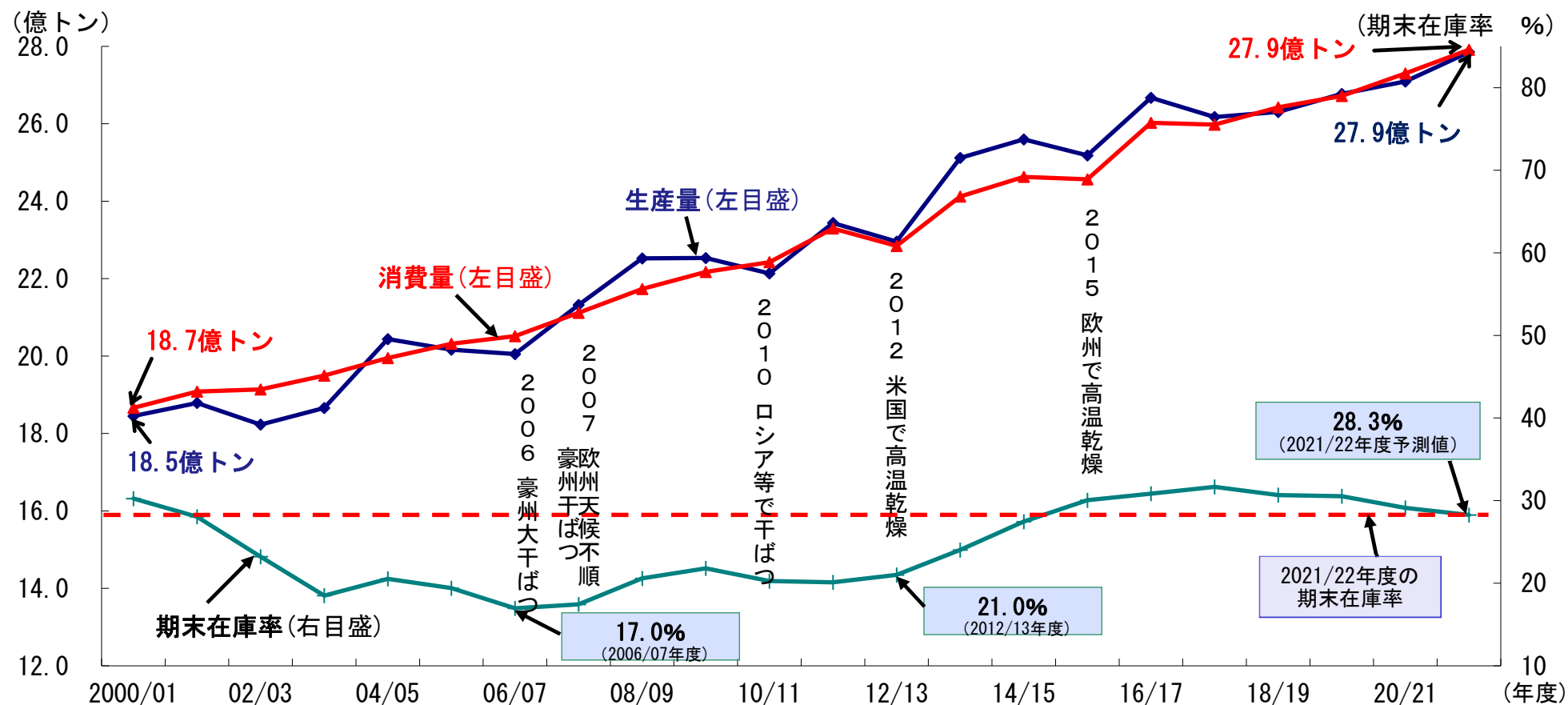
注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格（セツルメント）である。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。

注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2021/22年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2021/22年度の期末在庫率は、生産量が消費量を下回り、前年度より低下し、28.3%。直近の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移

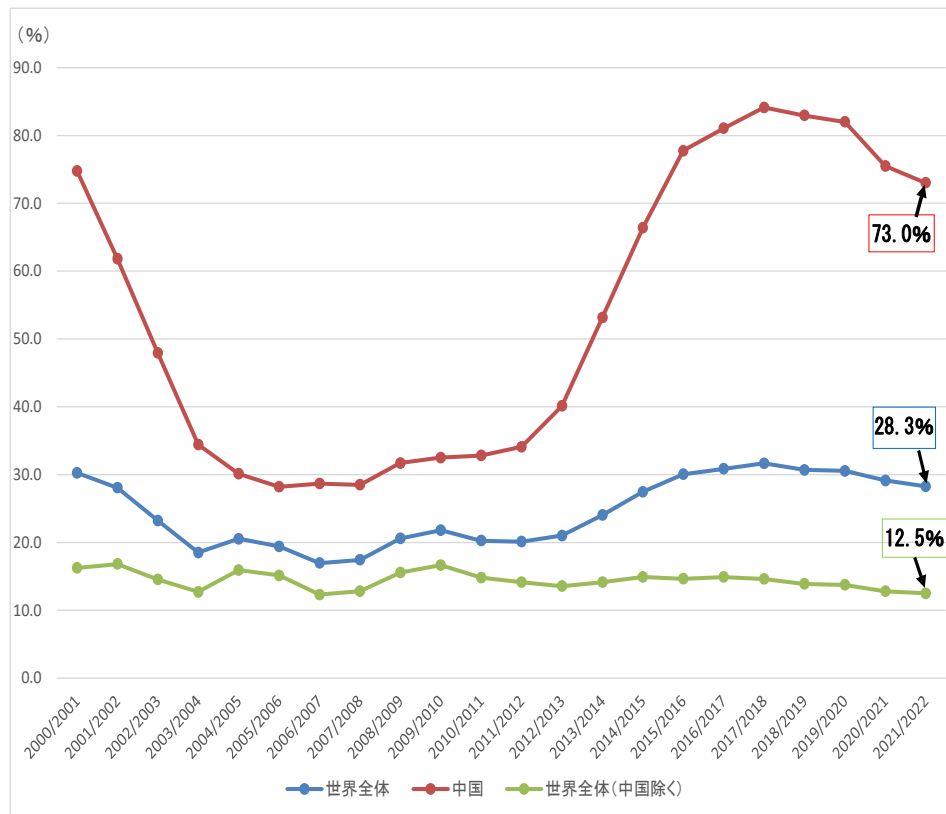


資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(September 2021)、「PS&D」

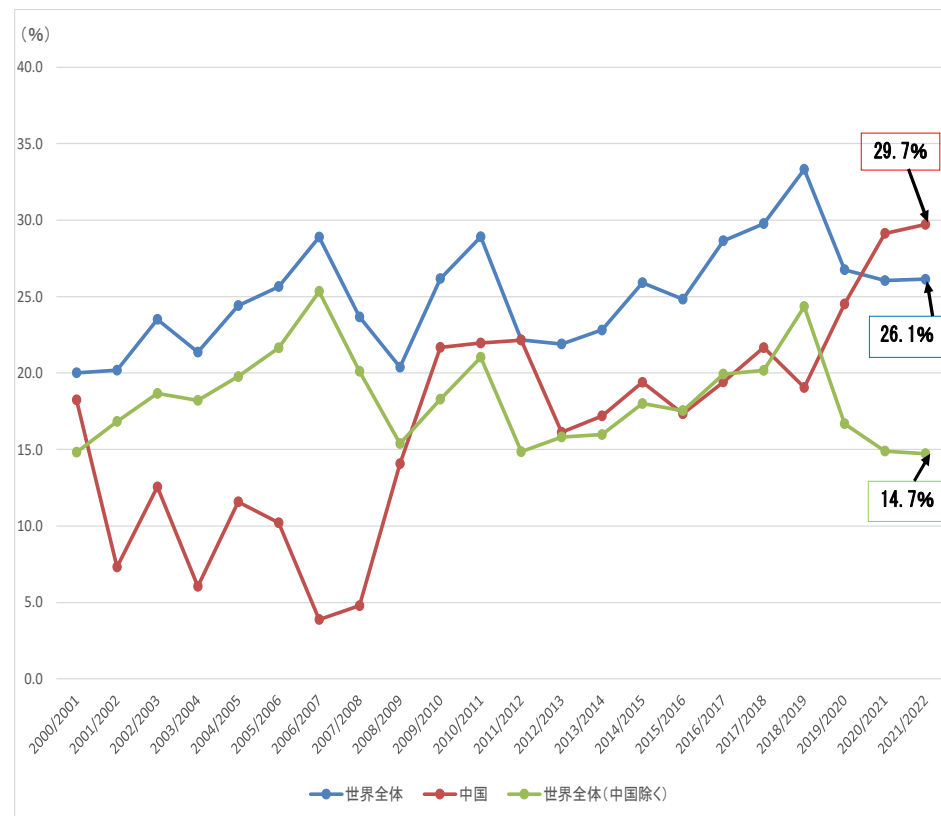
(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

資料 3-1 穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、大豆）

○ 穀物全体の期末在庫率の推移



○ 大豆の期末在庫率の推移



資料：米国農務省「PS&D」(September 10, 2021)

注：1) 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等(大豆除く)。

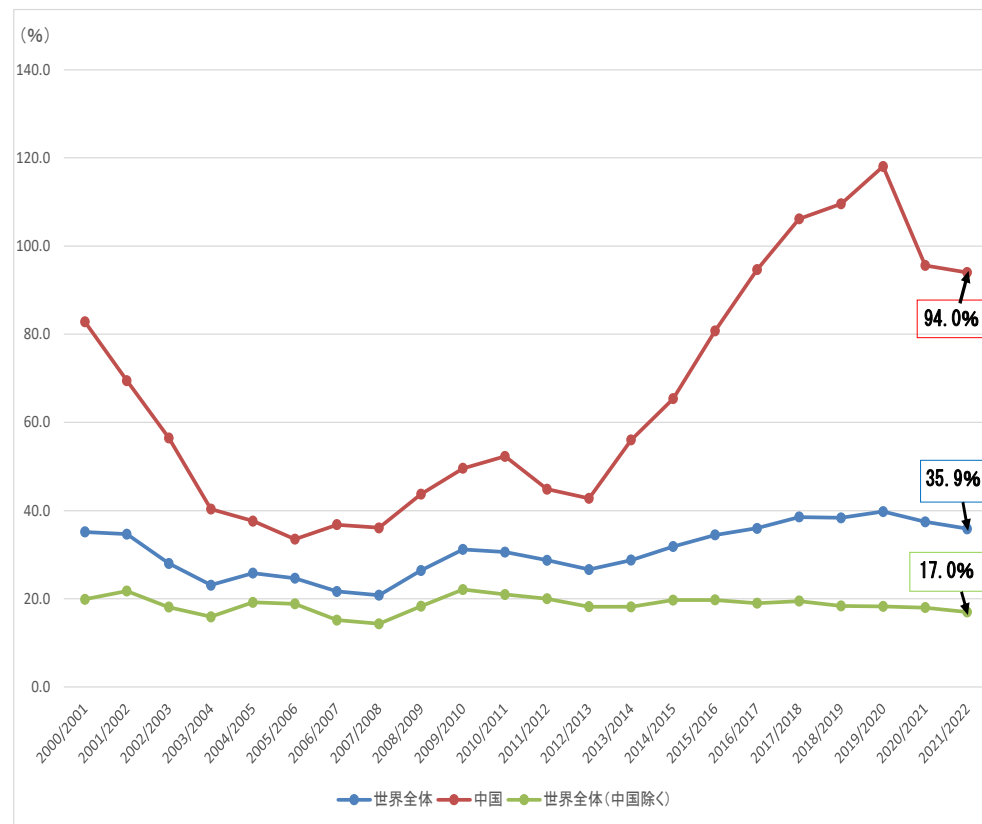
2) 世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / (消費量 + 輸出量 - 輸入量) × 100 ※ただし大豆については、世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / 消費量 × 100

3) 中国の期末在庫率(%) = 中国の期末在庫量 / (中国の消費量 + 中国の輸出量) × 100

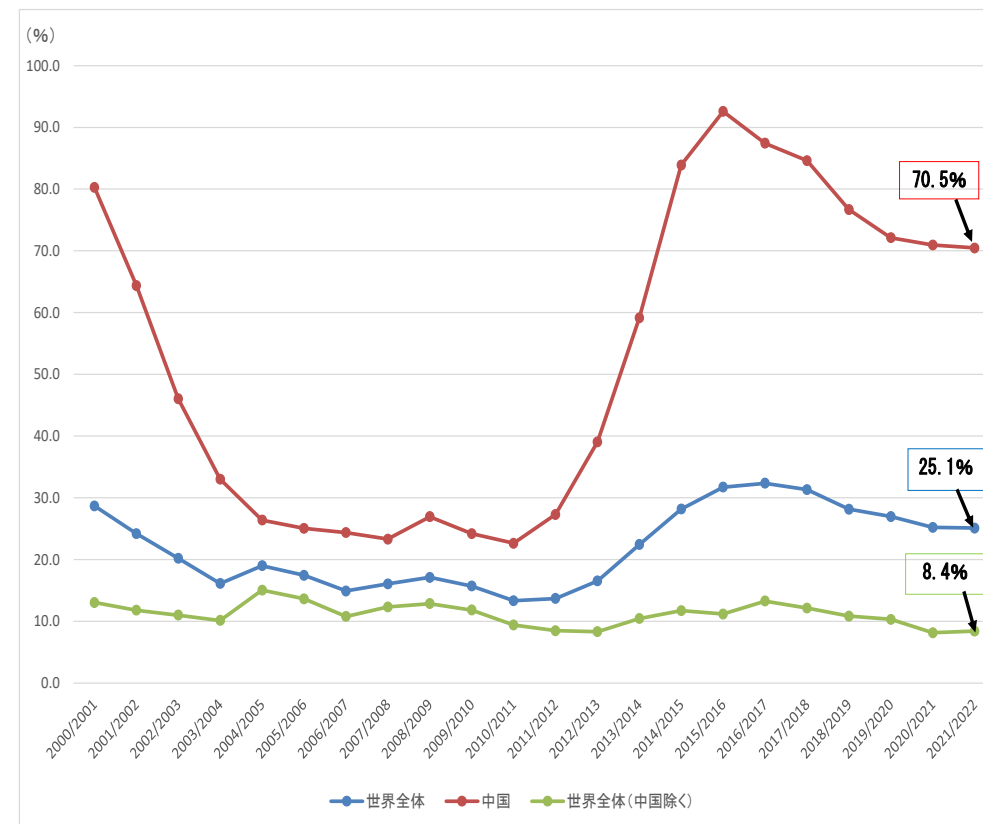
4) 中国除く期末在庫率(%) = 中国除く期末在庫量 / (中国除く消費量 + 中国除く輸出量) × 100

資料 3-2 穀物等の期末在庫率の推移（小麦、とうもろこし）

○ 小麦の期末在庫率の推移



○ とうもろこしの期末在庫率の推移



資料：米国農務省「PS&D」(September 10, 2021)

注：1)小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

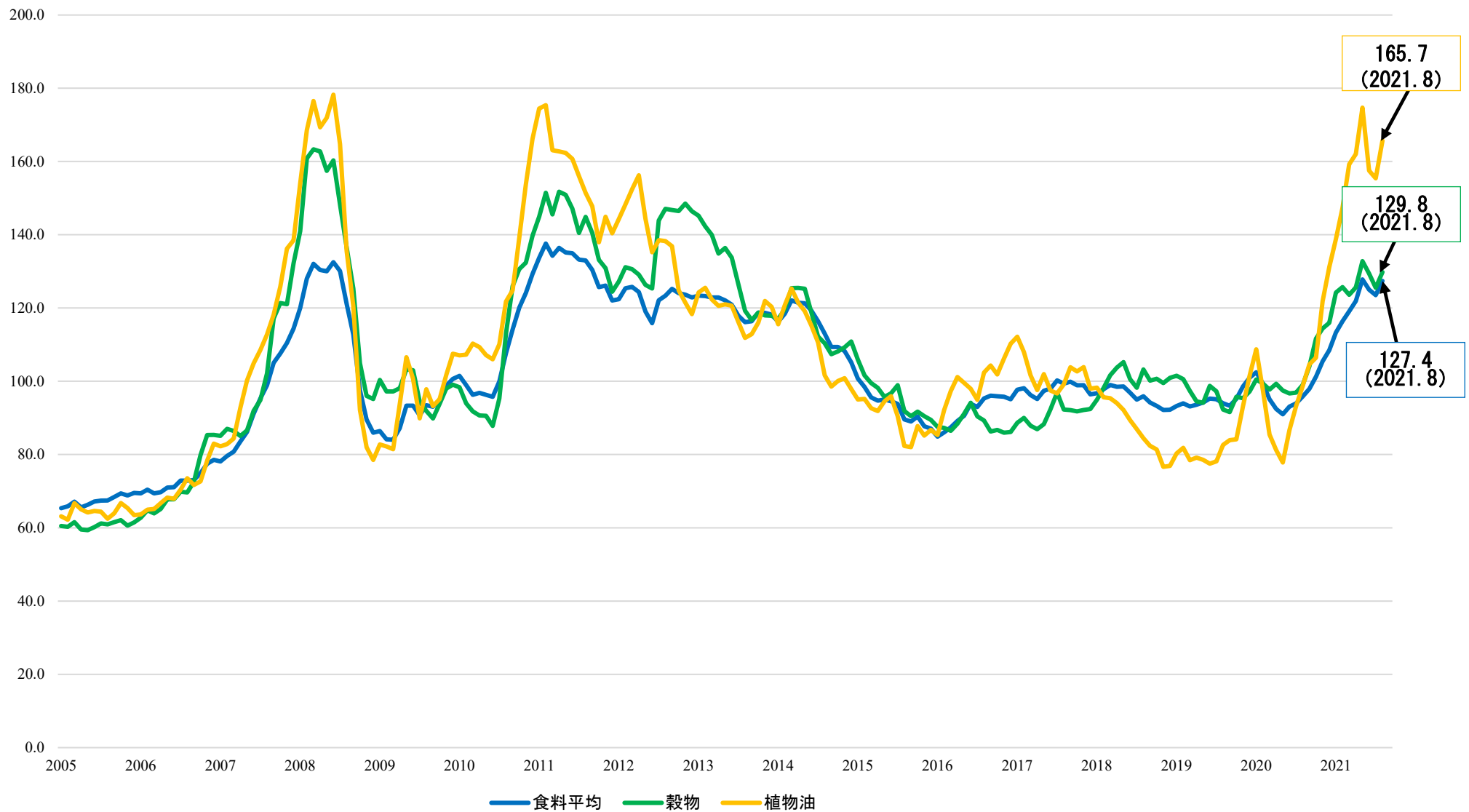
2)世界の期末在庫率(%)=期末在庫量/(消費量+輸出量-輸入量)×100

3)中国の期末在庫率(%)=中国の期末在庫量/(中国の消費量+中国の輸出量)×100

4)中国除く期末在庫率(%)=中国除く期末在庫量/(中国除く消費量+中国除く輸出量)×100

資料 4 FAO食料価格指数

(2014-16平均=100)



資料: FAO「Food Price Index」(2021.08)より作成

注: 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等、植物油は大豆油、菜種油、ひまわり油、パーム油等

資料5 食品小売価格の動向

○ 国内の加工食品の小売価格については大きな値動きはなし。

消費者物価指数（総務省） （令和3年3月～令和3年8月）

	H28	H29	H30	H31 (R元)	R2	R3						
品目	平均	平均	平均	平均	平均	3月	4月	5月	6月	7月	8月	上昇率 (前年 同月比)
食パン	99.9	99.6	100.2	101.1	100.0	98.7	99.2	98.3	99.0	99.3	99.4	-0.2%
即席めん	96.2	95.7	95.3	98.5	100.0	100.1	101.1	99.7	99.0	100.4	100.2	0.9%
豆腐	98.1	98.6	98.8	99.1	100.0	100.9	100.9	101.0	100.8	101.0	100.8	0.8%
食用油 (キャノーラ油)	106.3	102.7	101.5	100.9	100.0	98.1	98.7	99.4	102.3	103.9	107.9	8.6%
みそ	97.1	96.9	97.4	99.1	100.0	100.1	99.9	100.0	98.6	99.5	98.9	-1.4%
チーズ	97.7	97.3	100.9	101.3	100.0	99.5	100.3	97.9	96.5	98.7	100.6	0.0%
バター	99.0	99.3	99.5	99.9	100.0	99.8	99.8	99.9	99.9	99.9	99.8	-0.5%
マヨネーズ	103.8	102.3	100.8	100.7	100.0	100.5	99.7	100.6	100.0	108.6	110.2	11.3%
生鮮食品を 除く食料	96.1	97.0	97.9	99.0	100.0	99.9	99.8	100.0	100.0	100.1	100.1	0.3%

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。

【参考】

食品価格動向調査（農林水産省） （令和3年3月～令和3年9月）

	H28	H29	H30	H31 (R元)	R2	R3								
品目	平均	平均	平均	平均	平均	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上昇率 (前月比)	上昇率 (前年 同月比)
食パン	99.0	97.6	97.9	101.3	100.0	99.7	98.6	98.0	98.4	97.8	97.5	98.8	1.3%	-0.9%
即席めん	92.8	92.6	92.4	97.9	100.0	99.6	99.6	99.6	99.6	99.0	99.0	99.0	0.0%	-0.6%
豆腐	102.2	100.8	100.1	100.9	100.0	99.0	98.5	99.4	100.3	100.3	101.1	105.0	3.9%	6.1%
食用油 (キャノーラ油)	99.6	97.9	97.9	103.5	100.0	96.9	98.8	98.2	100.1	100.7	106.1	109.0	2.7%	9.9%
みそ	90.3	91.9	96.6	100.4	100.0	99.4	98.4	99.4	99.8	98.1	99.0	102.7	3.7%	3.1%
チーズ	95.5	95.2	98.6	100.9	100.0	100.0	99.1	98.6	93.1	99.5	99.1	103.0	3.9%	2.0%
バター	98.2	98.8	99.0	99.5	100.0	100.2	99.7	99.5	99.7	99.5	99.5	99.5	0.0%	-0.7%
マヨネーズ	99.9	99.1	97.9	103.1	100.0	98.7	97.7	97.7	99.0	104.5	105.9	106.6	0.7%	8.4%

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。

注2: 調査は原則、各都道府県10店舗で実施。平成30年9月までは週1回、同年10月以降は月1回実施。

注3: 調査結果は調査期間中の平均値で算出。

注4: 令和2年4～5月、令和3年1～3月、同5～9月については、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の対象都道府県においては調査を中止。そのためそれぞれ前月の値とは接続しない。